



特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊 会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報V o l . 1 6

平成 25 年 1 月 31 日

発行：理事長 山崎健一郎

T E L & F A X 0742-41-7839

編集（広報担当）：副理事長 馬場英彦

T E L 0743-75-1658

E - M a i l bamba@m4.kcn.ne.jp

巻 頭 言

（理事長 山崎健一郎）



皆様には新春をお健やかに
迎えのこととお慶び申しあげ
ます。昨年中に皆様方から賜わ
りましたご支援とご協力に対し厚
く御礼申し上げます。

日本は、長引くデフレからの脱却、財政再建、外
交問題、少子化による人口減少等課題が山積してい
ます。昨年末に政権が交代し、これら課題の早期対
応、解決への期待が高まっています。

2013年を展望して、1月1日の新聞各社の社
説は、「国家戦略の構築を」「日本再生元年に」「政治
の安定で国力の回復を」「外交問題は対話と法理で」
と明るい明日に向けた転換期にすべきとしています。

チャレンジ企業支援隊は、平成15年12月に認
証を取得して満9年が過ぎ、いよいよ本年満10年
の大きな節目を迎えます。

この節目をどの様に迎えるか。1月17日に開催
した定例会では、会員の方から貴重な意見を沢山頂
きました。（以下抜粋）

- ・GMSの原点である、中小企業やベンチャー企業
の支援のあり方について、再構築する事が重要で
ある。今年を改革元年にしてはどうか？
- ・我々（GMS）の大きな財産は、これまでご支援
いただいた方々とのネットワークと10年間の実
績である。このネットワークを大切にし、更に拡
げるために、具体的な行動を起こして行く年にし
たい。（官公庁・金融機関・関係諸団体等の連携）
- ・新入会員が活躍できる場を提供し、会員の若返り
をはかる等々。

これらを、平成25年度の事業計画に、反映し、
力強く新年度をスタートしたいと思っております。

日本の元気回復のため、少しでもお役に立てるよ
う尽力して参ります。今年も引続き、ご支援とご鞭
撻をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新しい年を迎えて

（特別顧問 成田欽史郎）



明けましておめでとうございます。
皆様に於かれましては、ご家族と
もども輝かしい新年をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。さて今
年は十二支では6番目の巳年にあ

たり、植物に種子が出来始める時期と考えられ、又
「漢書」では草木の成長が極限に達し、次の生命が
造られる時期とも言われています。チャレンジ企業
支援隊は平成15年に設立、奈良県から認証を頂き
本格的な活動に入ってから今年でちょうど10年目
の節目を迎えることになります。山崎理事長はじめ
会員の皆様の献身的なご努力により、今日ではその
活動が奈良県のみならず広く認知されるまでになり、
誠に同慶の至りです。このように私共の活動の輪
を広げ、数々の成果を上げることが出来たのは、
私共の活動を陰に陽に支えていただいている奈良県
の関係各位、又近畿経済産業局やNBK各位、そし
て大学・研究機関や支援機関、数多くの中小企業の
皆様の力強い、心温まるご支援の賜物であり、この
機会に心より御礼を申し上げたいと思います。さて
1990年代にクリントン政権の副大統領アル・ゴ
アが打ち出したナショナル・インフォメーション・
スーパーハイウェイの構想が切掛けとなり、15世
紀のヨハネス・グーテンベルグの活版印刷技術の発
明に端を発する宗教革命、18世紀～19世紀の産
業革命にも匹敵する広範にして甚大な変化を、現代
社会にもたらしているのではないかと云われていま
す。大きな流れや渦の中にいるとその変化に翻弄さ
れ、真の姿を看過することが多いのではないでしょ
うか。変化の本質を素早くとらえ、対応するのでは
なく変化を主導する知恵と行動力が求められてい
ると思います。10年の節目を一つの転機として、チ
ャレンジ企業支援隊がそのような発想のもと、次の
10年の歴史を築いて行ければと念願しております。

モノづくり部会「昨年の成果を本年に活かす」

(理事 モノづくり部会長 阪本 徳男)



昨年のモノづくり部会の活動は

- ①毎月開催のモノづくり部会、
- ②GMS経営勉強交流塾の開催、
- ③新しい活動として、次代を担う人材育成社長塾、

④K I A C関連事業の海外進出支援、事業支援とオープンイノベーション事業、

⑤奈良県中小企業団体中央会の受託事業の5つが、主な活動であった。個々の活動のポイントとして

■毎月開催のモノづくり部会では、今年より、各員の活動状況相互紹介・情報連絡に加え年齢と共に衰えるパソコン操作能力と写真取り込みなどの疑問点を解決の為、部会会議前の一時間、パソコン教室を実施し、共有課題を論議、勉強した。

■GMS経営勉強交流塾についての基本的な考え方は「企業一社では難しい企業訪問を、GMSが訪問先を選定・準備を行い、企業の優れた点、工場見学で学び、質疑応答で自社の経営課題の解決の導く参考とする」を目的とした。本年は、GMS全体として取組を強化し、参加を増やして行きたい。

■次代を担う人材育成社長塾は、昨年新しい活動としてスタートさせた。詳細は、主担当の吉川理事に、報告いただいた。(3ページをご覧ください)今年度からは社長塾で経験した事を基本に「経営実践塾」として、更なる展開をはかっていく。

■一般社団法人関西産業活性協議会(K I A C)の関連事業としては中小企業支援ネットワーク強化事業として3社に海外進出支援と事業開発支援をさせて頂いた。またオープンイノベーション事業も初めてとなるニーズ企業調査、シーズ企業調査とマッチングに至る全行程に参画させて頂いた。

事業開発支援をさせて頂いた企業様のご要望で、本年度はGMSとして継続支援をさせて頂く予定です。

■奈良県中小企業団体中央会受託事業の中小企業様開発試作品のフォローヒアリングについては、3名で短期間に21社を訪問し、ヒアリング調査実施し報告書を提出しました。今後、更にご要望があれば的確に対応していきたく思っている。

■本年度モノづくり部会は、GMS経営勉強交流塾の開催、経営実践塾、企業様の海外進出支援と事業開発

支援の三つ柱で企業様の支援に全力を注ぎ、企業様の事業発展に貢献させて頂きたいと思っております。皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

100回目を迎えたマーケティング部会

(副理事長・マーケティング部会長：馬場 英彦)



当部会は皆様のご支援ご協力により、

本年1月10日の開催で100回記念を迎える事が出来た。思い起こせばGM

Sが発足間もない時期に、大阪市立デザイン教育研究所の所長室をお借りし

て、スタートした。企業のマーケティング活動への支援の一環として、課題をお持ちの企業様や、創業間もない企業様の商品をいかにPRし、支援するか・・・を語り合う場として続けて来た。参加者は企業OB、現役のデザイナー、デザイン学生が中心となり、企業様を特別ゲストにお迎えし、企業様が直面されている課題について、あらゆる角度から提言し、共に解決の道を探る場(プラットフォーム)として継続し、今日に至っている。部会として、最近の支援事例を2件ご紹介する。

1. 新規開店のパン工場の販促活動 (担当:馬場)

昨年5月より生駒商店街の一角で新開店された授産所「パン工房H」様では、現在まで広報PR活動は全く手付かずの状態のままスタートされた。近隣には地元で知名度も高いパン屋さんがすぐ近所にあり、さらに毎週定期的に移動車で販売されるパン屋さんがいる。このような厳しい状況の中で、大阪市立デザイン教育研究所のデザイン学生4名が当店のPR活動を支援するために立ち上がった。昨年末よりパン工場の運営をされる所長を中心に若いデザイン学生が中心となり、年間のチラシ作りから店頭・店内のPOP訴求まで全て任されて取り組んでいる。毎月の販売実績成果を確認し顧客開発やセールスプロモーション活動を行う事は、デザイン学生に取って、生きた教材による貴重な体験となるので、各自真剣に月々の制作を進めている。

2. セールスアプローチブックの制作

企画デザイン制作 (担当:辻谷)

(株)K様は、産業界の廃棄パソコンや使用済み機器のリサイクル事業を行う創業4年目の元気な会社である。近畿圏と首都圏を中心に事業を展開、社長と若いスタッフ達が過疎地の廃校をリサイクル工場にリフォームし、障害をお持ちの方や高齢の方々も健常者と共に生き生き働ける素晴らしい職場を開設・運営して、地域の活性化に

役立っている。

このセールスアプローチブックは、若い営業社員がお客様(産業廃棄物提供企業)に難解な廃棄物処理の説明をするためのツールとして企画した。様々な訪問先に応じて、必要な頁だけを適宜選び出し、紙芝居形式で説明することが出来るもので、リサイクル業界初のユニークな販促ツールである。

HRM部会「名称もかえて基盤づくりの年に」

(理事 HRM部会長 岡田佳久)



昨年のHRM部会の活動は、基盤作りの1年間として活動してきた。HRM部会として、企業向け・教育機関向けに提供できるメニュー作りや、ヒアリング調査を中心に行ってきた。さらに、部会の名称であるHRM(ヒューマン・リソース・マネジメント)という言葉が分かりにくい、イメージしにくいといった意見もあったことから、現在、誰でもイメージしやすく、理解しやすい名称へと変更する予定である。

昨年5月のマーケティング部会において「大学生・若者の就職状況」のテーマで講演した。会場であった大阪市立デザイン教育研究所の学生も数名参加され、学生も含めて参加者からは「非常に参考になった」、「もっと早くに、このような話を聞きたかった」などの感想を頂戴し、大変好評であった。

本年度は、昨年度から継続している基盤作りの充実とともに、HRM部会単独では人員に限りがあり活動や広報の範囲を拡大するために、マーケティング部会やモノづくり部会と協力しながら、人材に関する支援を行って行きたい。

さらに、GMS定例会などにて、人材に関する情報提供も行うことができればと考えている。

キャリアに関する知識がない、人事の業務に携わったことがない・・・これまで、HRM部会に参加する際に、敷居が高いといったイメージがあった。昨年度は、この敷居が少しは低くなったとはいえ、まだまだ払拭できていないのが現状である。

今年度は、知識や経験に関係なく、少しでもHRM部会の活動に興味を持っていただいた方が、できる範囲内で協力していただける組織を作り、HRM部会の仲間を一人でも多く作っていくことも一つの目標である。

新しく始めた「次代を担う人づくり経営実践塾」

(理事 吉川 猛雄)



このたびチャレンジ企業支援隊(GMS)では、経営人材を育成するための「経営実践塾」を立ち上げた。単なる研修ではなく、参加メンバー(塾生)が直面している経営課題を塾活動を通じて、解決策を作成し、実行する。その解決策の作成、実行にあたっては、GMSが塾生と一緒に取り組む仕組みである。その支援過程でGMSが持つ経営ノウハウを注入する。GMSからみればコンサルタント業務になるが、大事なことは、あくまで主体者は塾生でGMSは支援するという立場で塾活動を進めることにある。又、研修でなく仕事であるという位置づけを明確にするために、上司も参加することが望ましい。

期待される成果としては、課題解決だけでなく、経営に関する幅広い知識が身につく経営感覚を磨けること、事業目論見を立案できる人材を養成できることにある。

昨年、人員が160人規模のある会社でこの塾を実施した。テーマは三カ年の中期経営計画を策定することである。次の三カ年の中期経営計画を従来とは違う発想で策定したいという要請である。月1回の開催で、塾生8名と社長が出席し、GMSからは4名参画した。冒頭、「現在の時代認識と経営のあり方」をプレゼンし、まず塾生の意識改革からスタートした。従来と発想を転換した中期経営計画にするにあたり、起業する際踏むステップを紹介し、現在の経営課題をその視点で見直してもらった。具体的には、・環境分析(マーケット分析、ターゲット分析、ビジネスモデルの再構築等)・戦略目標の設定(定性目標、定量目標等)・マーケティング戦略(基本戦略、個別戦略等)・計画の策定のステップで進めた。

今回は時間の制約もあり最後までやれなかったが、毎回白熱した議論があり、塾生の意識改革に貢献できたと確信している。

企業様支援の活動を始めて感じたこと

(正会員 小松青磁)



私は昨年3月にGMSに加入させていただき、同年7月に、大阪に本社のある従業員約30名

のリサイクル会社の販売支援を担当させていただくことになり、現在も支援をさせていただいている。GMSの運営理念である、“中小企業、ベンチャー企業の支援活動を通じて、地域社会の活性化を目指す”ことであり、この運営理念を念頭に、この企業様の支援活動をしている。この企業様は主にPC機器のリサイクル事業を開始して3年余りとまだ若く、販売、製造ともに会社としての様々なインフラの構築が急務であった。GMSとして南部理事が、既に製造部門を支援し、宣伝部門として辻谷理事が支援していた。ここに新たに販売部門の支援として私に加わり、GMSとして3名体制で支援している。

私の担当させていただいている販売部門に関しては、販売部門としての基本的なインフラ構築となる事業計画、販売計画、販売管理等の策定に加わることで、販売を安定的かつ拡大する為の施策を支援させていただいている。

支援開始当初は、企業様の要望と私の今まで培った、知識、経験とのマッチング、又、いかに企業様のお役に立てられるか、試行錯誤が続きましたが、この企業の社長様及び従業員の皆さんと面談を重ねることで方向性も定まってきた。半年経過し、この企業様の一員として会社の皆さんと一緒に考え、時には悩みながら、私自身も日々勉強しながら、当初の目的である販売部門のインフラ構築が徐々に出来、販売実績も安定的に軌道に乗り出してきた。

また、製造部門担当の南部理事、宣伝部門担当の辻谷理事と私の各担当職能がGMSのチームとして総合的に支援させて頂くことで、企業様にとってはトータルの支援を受けることになり、社長様からもGMSに対する信頼感、期待感がより強いものになっているのではないかと感じている。

GMSはNPOとして今年で10年という大きな節目を迎える。一般的にNPOの組織の多くが数年で消滅してしまう現実の中で、GMSはさらに活動の輪が広がっている。GMSを設立された成田特別顧問初めGMS諸先輩の皆さまが、日々GMSの運営理念を体して献身的な企業支援活動をされてきた賜物だと思う。

今後GMSの活動を通じて更に多くの企業様の支援活動をすることで社会貢献していきたいと思っている。

チャレンジ企業支援隊 平成24年活動内容

1月 ・会報14号発行

- ・「GMS新春講演・交流会」開催
講演：「混迷の時代を生き抜くための『選択と集中』」
講師：㈱イーサーブ 代表取締役
鈴木邦明氏

2月 企業支援

- 人材育成社長塾を開講（京都）
- 工場における生産性向上（奈良）

3月 ・「第22回GMS経営勉強交流塾」開催 テーマ「現場で学ぶ経営哲学と

多品種少量生産への対応」

場 所：田中電工㈱ 門真工場

5月 ・第10回総会開催（於：松心会館・門真市）

- ・奈良県「1施設1品づくり」事業開始

7月 ・「第23回GMS経営勉強交流塾」開催

テーマ「世界にない、新しいモノづくり」

を貫く独自の技術経営に学ぶ

場 所：㈱タカトリ（橿原市）

- ・奈良市ボランティア・NPO団体パネル展
に出席

企業支援

- 販路開拓、販売活動（大阪）

8月 ・「新しい公共」実践セミナー

- 「チャレンジ助っ人隊派遣説明会」開催
- ・上記支援団体へ集合研修実施

企業支援

- 新商品開発、販売ルート開拓（大阪）

9月 ・会報15号発行

10月 ・奈良県「障がい者働きがい支援事業」 フォロー支援

12月 企業支援

- 販売促進資料作成（大阪）

<K I A C事業関係>

- ・中小企業支援NW強化事業（専門家派遣）
- ・オープンイノベーション事業（コーディネータ）
- ・川上・川下ビジネスNW強化事業（SA担当）

<平成24年 部会開催状況・12月まで>

- ・モノづくり部会 ：第60回～第71回
- ・マーケティング部会：第88回～第99回